

第3回 相良地域学校用地候補地選定委員会 会議録

教育長挨拶

候補地を5つに広げ、5か所の検討を行い、整理してもらった。委員の皆様評価項目ごとに評価いただきました。協議の上、絞り込みをしていただければと思います。

事務局

議事に移ります。最初に前回の振り返りと議事の進め方について説明します。候補地いーら周辺の現地確認をし、候補地を5か所にして検討するということが決まった。候補地の状況整理シートを作成し、評価シートをそれぞれの委員の皆様にご送らせていただき、個人で評価をつけていただいている。今日は意見交換の上、もう一度、自分の評価を確認し、必要があれば修正をお願いします。その際は見え消しで修正願います。事務局が回収し、集計し、その後、評価シートをもとに議論を進め、最有力候補地を決め、教育委員会に提案する内容を決めたいと思います。

佐藤委員長

では、各候補地の状況確認ということで進めます。5か所の各候補地の状況を整理した。各候補地の状況確認シートについて、事務局より、説明をお願いいたします。

事務局

事務局から、状況整理シートの説明をさせていただきます。メリットデメリット、課題への対応について整理をして、候補地毎にまとめたものになります。大沢公民館はため池の利用者、所有者との調整が必要となる。切り盛りの上、校地内に多くの段差ができることとなる。造成後の段差が5m程度となる見込みで、教育活動のしにくさが挙げられる。また、朝晩のR473の渋滞の問題がある。進入路となる見込みの区間において国道に歩道がない。さらに進入路確保のためには右折レーンの設置が必要となり、県や警察との調整が必要となる。裏面に参ります。用地建設について。山の切り盛り、擁壁整備、大規模な造成工事が必要となり4万m³の残土処分が必要となる見込み。さらに連絡を取るのが難しい地権者がいる。候補地2。こちらは災害時自衛隊の宿营地、ヘリポートとなる。また校地南側の山頂付近に古い貯水タンクがある。元々、この土地は谷を埋めた場所であるため、地盤に不安があるとのことだったが、10m程地下に支持層がある。教育環境については。メリットは市街地に比較的近い場所、デメリットの中では市街地から離れているとあるが、皆様の意見をそのまま載せているためである。用地建設について。学校用地は市有地となるが、代替地の整備に費用がかかる。地域性は市街地から比較的近いが、グラウンドの利用者との協議が必要となる。まちづくりの視点。市街地の背後地、みどり文化の森と接続している。開発可能性がある場所ではある。次に大沢IC。高台ではないが、津波や風水害の心配がない。バイパスな

ど、避難地もある。埋蔵文化財の包蔵地ではあるが、造成工事と同時施工で調査ができると確認済み。アクセスについては進入路の関係で、拡幅、今後の調整となる。バイパス沿いではあるが、一部道路を拡幅して整備したり、自動車専用、徒歩自転車専用、と分ける方法もあると考えている。用地建設。用地買収は大丈夫か、ということだが、候補地決定後に用地調査を行って確認していく。市街地に近い、みどり文化に接続しているのでこちらも相良総合グラウンドと同様に必要に応じて開発可能。いーら南側について。一か所に公共施設が集中してしまうので、リスクが分散できない点がデメリットとなっている。不整形な土地であるため、校舎を高層にせざるを得ない＝費用が掛かる。また高層化は教育環境的に好ましくないという判断。保育園等が隣接しているのは利点である。多目的体育館を学校の体育館として使うことはできないか、という意見に対しては、社会体育施設を学校用施設として利用するのは難しいという判断であるという前回の内容を載せている。進入路が現道から奥まった場所になっているので、進入路の整備が難しい。駐車場もいーらを利用するのは調整が必要。残土処分量が膨大で、処分費だけで28億円かかる。周辺住民への影響も大きい。多目的体育館の8倍残土が出る。津波防潮堤に流用できる土は9.6万m³。防潮堤に土を使えたとしてもあと60万m³残る。残土処分が課題。まちづくりの視点は市街地の背後地、施設の集約化ができる。集約化はデメリットとメリットがある。菅山小学校および周辺について。放射能防護施設が現体育館が指定されている。体育館を取り壊す場合は同等程度の施設を新たに整備する必要がある。不整形な土地であり、神社の参道が敷地の真ん中を通ることとなる。アクセスについてはスクールバスの進入路が取りにくいという部分。カーブの途中になっているので、進入路の設置が難しい。用地建設については。既設学校校舎とプールの一部が埋蔵文化財包蔵地の範囲になっている。取壊し後に調査という流れになるため、仮設校舎を整備する必要があるなど費用の増大、工事の長期化となる可能性が高い。ひとつ、修正です。大沢公民館、アクセスのところ、R473号バイパスではなくR473号に修正願います。評価シートについては個々の評価シートを付けています。修正はそちらを使ってください。

佐藤委員長

説明ありがとうございます。事務局から説明があった、評価シートについて、これを基に議論を進めたいと思う。新たに付け加えたいこと、質問したいこと、全体でも個々でも、感じたこと、考えたことについて、一人ずつ意見を伺っていきたいと思う。[]から。

[]
評価シートで悩んだこと。津波10～0の評価となっている。浸水区域外であるので、悩んだ。他の部分も判断に悩んだ場所もあったが、中間の点数を付けた。いーら南側を候補地として選んだが、やはりいーら南側はデメリットが大きいと感じた。私としては平場面積が一番広いところを優先したい。大沢ICのデメリットが少ないので、そちらが良いかと思った。

状況整理シートそのものについてですよね。内容が盛り込まれていていいと思う。私個人として、余裕がある面積を確保しておく必要がある。大きな工事となる。確保できる面積に余裕があるということは大きい場所の方が、工事の仮設の問題や安全性の観点から重要。また、これから何十年と使う場所。不正系よりは整形地にしたほうがいい。アクセスの問題も、これから使う子どものことを考えると重要。経費の問題も。できる限り、造成規模が少ない方が、経費にも連動してくる。自然を大きく、既存の地形を大きく作り変えることは避けた方がいいと思っている。7の街づくりの観点については、10年、20年、まちづくりに影響があるような場所があれば、教えていただきたい。総合計画との関連もどうか。どこを選ぶとどういう影響があるのか、教えていただければと思う。街づくりの視点が校地選定に大きく影響するとは思っていないが、参考までに。

佐藤委員長

事務局いかがですか。

内山部長

今後のまちづくりは考えていかなければならない。既存学校の跡地利用も考えなければならぬ。候補地に挙がっているところのまちづくりの観点について、既存市街地に隣接する場所を選んでいるので、極端な差はない。多少の優劣はあるかもしれないが、将来的な展望を考えながら、校地が決まればと思います。

津波、防災の関係は2～10段階。高評価とした。私は平場面積が最も気になる。重要だと思う。広げたい、となったときも、余裕がなければどうしようもない。グラウンドを広げたい、校舎を広げたい、となったときに大変。また、当然まちづくりと一体となったものとして考えていくべき。市街地に近いほど、CSの観点からも多くの人に来られる、という状況を用意しておくことが必要。地域の人でも学校へ行くことに躊躇しないような、場所が良い。段差がなく、交通アクセスもいい場所がベスト。そして経済性。これから建設費も具体的に becoming。地元の校長先生とも話した、市街地に近く、地元の人々が気軽に来られる場所がいい。交通アクセスがよく、市街地に近く、まちづくりの計画に組み込んだ計画で校地を選んでいくべきだと思う。

委員長

状況整理シートには異論はないか。

状況整理シートには特に異論はありません。

佐藤委員長

次に 〇〇〇〇 お願いします。

防災については問題ないと思う。平場面積。将来に備えて、拡張ができる余裕を持った面積を確保しておく必要があると思う。コストも低い方がもちろんいい。疑問や課題に対して出た意見について、ほぼクリアできている場所が大沢IC候補地だと思う。

佐藤委員長

〇〇〇〇 お願いします。

状況整理シートについて異論はない。一つ聞きたいのはグラウンドの件。今の相良総合グラウンドを造成した時はグラウンドを作るための造成であることから、建物を作るための造成ではない。そこに建物を建てても大丈夫なのか。十分な面積を確保すること、コストもできる限り低い方がいい。

佐藤委員長

事務局お願いします。

内山部長

おっしゃる通り、総合グラウンドについてはグラウンドのための造成である。この造成については、当時、自衛隊の訓練を兼ねた造成だと聞いている。一部崩落があった場所もあったものの、今は安定している。ただし、グラウンドとして安全かもしれないが、建物建てたときに何かしらの影響があるかもしれないのも当然想定される。他の校地も同様のことだが、実際にこの校地に施工するならボーリング調査等、地盤をしっかりと調べないといけない。

状況整理シートの中で、安全なところに、という点。登下校の安全性。予算にもなるが、周辺道路を拡張するという予算見込み額には入っていない？→入っていない。コストという部分で少し変動するのではないか、という点が疑問である。評価シートの5段階評価となっている。こまかく11点、13点とすべき？変わってくると思うので、教えてほしい。

内山部長

道路等の拡張のための予算、積算している想定工事費について、既存の道路から、既設の敷地に入るための費用は見込んでいる。ただ、既存の道路を拡張する、右折レーンの設置のためのお金は入っていない。あくまでも、学校敷地として必要な費用のみ、見込まれている。段階評価については5段階評価で考えていただければと思う。

道路の拡張のための費用について、僕は考えなくていいということか？

内山部長

課題として考えるのは、デメリットとしてその旨が、記載されているということである。

私の立場から言わせてもらおうと、子どもの安全が第一。体育館だってふたつほしい。グラウンドもある程度の面積が必要。なぜなら小中が一緒になるのだから。それを踏まえて費用の問題が出てくる。優先度としては3つ目くらいに出てくるのかな、と考えている。

大沢ICのアクセスについて、ICの入口のところにあるが、渋滞が起きるのではないか、という心配もある。その点はどう考えているか。総合グラウンドやいこっと等との連携ができると書いてある。男女テニスが総合グラウンドのテニスコートを使っているが、万が一の避難の際に、総合グラウンドとの連絡通路的な部分、どう考えているか。お聞きしたい。

内山部長

まず、渋滞が起こるのではないか、というところ。学校の校地が決まってから、基本構想・計画の中で議論が進むことと思う。学校へのメインの進入路は既存の道路を使うことは考えていない。そのために進入路の整備が必要だと考えている。徒歩通学と自動車、バスの進入路は別にすると想定している。総合グラウンドとの連絡通路について、具体的に議論はしていないが、今後の検討課題とさせていただきます。

市から説明のあった状況整理シートについて。難しかったところ。どの候補地についても3番と6番。こちらに住んでいる人間でないと難しい部分であると思う。相良の総合グラウンドが市街地に近いのか、遠いのか、という点。自分のように外に住んでいる人間としては人口集中地区がどこか、という点から見た。人口集中地区はこの市役所の付近。菅山小学校が遠いかな、というぐらいで、他の場所は似たり寄ったりという感じ。実際の通行ルートの問題もあるかもしれないが、それは地元の皆様のご意見を伺いたい。まちづくりの視点に関しては、今後どう発展しようとしているか、は見えにくい。みどり文化の森と接していると

発展性があるのか、という感じかと読み取った。いーらの点、多数の公共施設と隣接しているのがメリットデメリットがある。もうひとつは地元の理解の得やすさの部分。菅山小学校の評価の仕方、悩んだところ。里山的な雰囲気がいいと思ったが、相良地域唯一の学校、義務教育学校の校地を選ぶ、となった場合、適切なかどうか、悩むところではあった。

地頭方区民はバス通学になる。その身からすると、どの候補地も大きな差はないと思う。い～らは山を越えなきゃいけない。グラウンドは回り道をしなきゃ、とそのぐらいの個人個人の感覚である。

内山部長

それぞれの意見を載せたものになっているので、それぞれの考え方ではあるが、商業施設に近いというほうが、いろんな可能性が高いと考えている。

菅山小学校は3候補地の時にはなかったが、地図で見るとおり、少し離れているな、という感覚でよろしいか。

佐藤委員長

どうか。

歴史の長い神社がある。交通アクセスの部分は難があるかも。地域性はとてもいい。CS活動やボランティア活動も盛んである。地域性としての盛り上がり方は良いと思う。ただ、海側からも市街地からも離れていて、おっしゃる通り里山的な場所。候補地とすると、校地の真ん中に参道が通っている。萩間、菅山など、山側の市民からするといいかもしれないが、市街地からは距離があるのも事実。地域性、地元での学校の盛り上げ方はとてもいい。地元の人たちが協力的で助かっていると、菅山小学校の校長からは話が合った。ただ、町全体の中で、小中一貫校を作るうえでの菅山小学校の位置、というのは少し厳しいかな、という印象はもっている。

内山部長

近い、遠いという感覚の部分はある。A3の比較表を分けた。通学方法の%が乗っている。実際に学校に通う場合の割合になっている。一つの指標として、客観的なものとして使える。

佐藤委員長

教育環境のよさ、というのも、必ずしも市街地に近いから教育環境がいい、ということにもならない。合意形成の部分も、地権者との合意形成がしやすいか、という部分もある。そこも考えて合意形成を考えなければならないと思う。

合意形成ということについて。地頭方からも、萩間からも、片浜からも、ということを考えて、全体の合意形成という観点を見ると、最初の3カ所の候補地がいいのではと考える。防犯の面から見ると、市街地に近い、民家が多いほうが、市街地に近い場所の方がいいと思う。

としては、どのような教育環境が良いとはどういう場所か。

難しいな、と思う。教育環境というのが抽象的で。教育活動は市街地に近い方がいい。理科のような観察活動であれば、里山的なほうがいい、となる。

佐藤委員長

両方の面から見て採点してもらえればと思う。

状況整理シートは異議なし。評価シート、点数の付け方の部分。教育環境のアクセスについて、捉え方はそれぞれでいい。皆さんの基準がズレなければいい。すべての地区の代表の方がでて来ている。一人の声で決めるのではなく、それぞれの地区の代表として、それぞれの基準で評価してもらえればいい。それが評価の見える化になる。

佐藤委員長

整理していただきありがとうございます。では評価シートの採点修正をお願いします。

事務局より各候補地の評価シートの情報について紹介

佐藤委員長

5つの候補地から最有力候補地を選定するのが本委員会の目的となる。委員の皆様のご意見を伺っていききたいと思います。からお願いします。

大沢ICが最も高得点とした。アクセスについて、スクールバスで来る子どもはいいが、雨の日に徒歩や自転車でくる児童生徒について、車による保護者の送迎が最近すごく多い。雨の日に大沢ICのところで大渋滞となり、ICが入れなくなってしまう等はないか。

内山部長

雨の日の送迎の問題は先進地でも同様の話を聞く。配慮すべきとアドバイスをもらうことが多い。敷地内にバスのロータリーや送迎用の乗降場所は検討すべきとアドバイスをもらうので、これはどこの校地を検討にするにしても必要なことと考えている。

全て3ヶ所で他の候補地との差が大きく出ている。問題ないと思う。雨の日の送迎の問題は現実の問題としてある。一定程度配慮する必要はあると思うが、雨の日は保護者が送ってくることを促すようになってはいけない。事実ではあるが、雨の日は長靴を履いて、傘をさして登校して褒められるような学校が良い。

委員の皆様が総合的に見て、ベスト、という判断だと思う。総合グラウンドへ行く道路からの進入路を設けるというのも一考かと思う。

評価シートの結果は満足。この結果通りであった。土地利用について、バスロータリーについても追加する用地があるというのもいい。トータルコストの面でも優れている。この結果で問題ない。

候補地の決定について異論はない。検討会の中でより議論していきたい。建設部長もいるので、周辺道路のことも気にしてもらいたい。

同じ意見。異議はないです。バイパスからの道路だけでなく、裏口的な、別の入口があれば交通トラブルも起きにくい。

大沢インター候補地が最も高い。平場面積が多く取れることがいい。雨の日の文化発表会で近くの小学校を借りたことがあるが、駐車場の確保に非常に苦労した。安心・安全の面でもグラウンドへの避難の問題や、複数の出入口、総合グラウンドへの道があれば利便性も増す。

ぜひ検討していただきたい。

候補地3がこれだけ満場一致で最も高い評価となった。この委員会の総意である。これからの発展、まちづくりに期待してきたい。異議はありません。

候補地3が最も得点が高い。感覚的な部分が数値化されたこと、最有力となったこと、異論はありません。

佐藤委員長

全体から意見を伺いました。最有力候補地は候補地3の大沢インター北側周辺が最も望ましい、と集約できる。余裕がある面積が確保できること、安全性の面、コスト面、皆さん重視されている点から見ても、候補地3は必要条件を満たしている。意見を集約すると、最有力候補地は候補地3の大沢インター北側周辺としたいが、ご異議ありませんか。

異議なし。

佐藤委員長

では大沢インター北側周辺を最有力候補地として教育委員会へ提案したいと思います。最後に提案内容として、何か付け加えること、付帯意見があれば伺いたい。

からお話があったが、アクセスの問題等お話があったが、何か付け加えることはありますか。

車用の進入路と歩行自転車用と分けるなど検討しているか。

内山部長

既存のICに近く、150号バイパスの延伸が予定されているので、既存のICから校地へ入ることはできないのではないかという見込みがある。そのため、グラウンドへの進入路から学校への進入路を整備を考えなければならないと考えている。併せて現道である、北側と南側に市道があるため、歩車分離の進入路を検討していきたい。今はその想定である。

今日の評価シートでいう1～7で評価した結果、満点を見ると1, 4, 5は満点に点数が高い=重視している箇所だと思う。防災、アクセス、用地建設は重要視して、この委員会でも

十分議論した、ということは入れておいてもらう必要があると思う。

佐藤委員長

報告書の中でなぜ、この候補地が選ばれたのか、ということは十分に説明する予定。解説もいれて説明すればよろしいか。

十分だと思います。

佐藤委員長

特によろしければこの報告書のまとめ方については私と事務局でまとめ、委員の皆様を確認を行い、承諾をいただく、という形でよろしいか。

全員

よろしく願いいたします。

佐藤委員長

街づくりの観点、新しい用地が決まると他の候補地は跡地利用を考えていかなければならない。跡地の活用についても当然議論となる。文部科学省のHPに毎年100件以上の廃校の問題が出てきていて、跡地活用の事例が紹介されている。小学校中学校を中心にして地域を作ってきたという歴史もあるが、社会構造が変わってきている現代において、新しい時代、それを資源と考えて、住民の方も、協同して、必ずしも学校が地域の核になるわけではない。地域の核になるような跡地の活用、地域に合ったニーズ、企業や住民の参加によって、地域の活性化につながるような、跡地の利用、地域の魅力を発信できる施設を考えることを地域が中心となって進めていくことができるよう、期待しています。牧之原市は住民参加によって作られた再編計画ができています。再編計画に基づいて、この委員会も設立されてここまで議論してきた。未来の子どもたちのための、とここに書いてある。まだこの世に生まれていない子どもたちも通うことになる。今の大人の目線ではなく、未来の子どもたちの目線で、未来の牧之原のために、この委員会では候補地を選んでいただけたと思う。ありがとうございました。教育委員会に報告させていただきたいと思います。

副市長あいさつ

8月から議論いただき、ありがとうございました。相良地域の地区長の皆様によって、方向性を示していただいた。活発な議論ができたと思う。子供たちにとっていい教育環境を整備できるように進めていきたいと思っています。

事務局から連絡

今後、議論されてきた内容を報告書として整えたものをご確認いただき、修正点があればお伝えいただきたい。案ができたらご連絡いたします。今日、校地候補地が決まったが、個人の用地の内容が含まれるため、守秘扱いは引き続きお願いします。